

# 2021 第38回 ヨーロッパ・キリスト者の集い

主催 教会

スイス日本語福音キリスト教会、ミュンヘン日本語キリスト教会、南ロンドン日本語キリスト教会、パリ・プロテスタント日本語教会



開催地：フランス・ストラスブール

## テーマ

## キリストにある希望

主題聖句：エレミヤ29章11節

わたし自身、あなたがたのために立てている計画をよく知っている——主のことば——。それはわざわざではなく平安を与える計画であり、あなたがたに将来と希望を与えるためのものだ。 新改訳2017

今回の集いのキーワードを2021集い実行委員会では全員一致で“希望”に決めました。次々と人類に襲いかかる災厄。すべての希望が失せるような先の見えない不安の中に置かれている私たちに希望はあるのか。キリスト者は、この希望は神の言葉“聖書”にあると答えます。この集いでは、みことばに耳と心を傾け、兄弟の交わりや学びを通して、希望を胸に日々歩むことを目指します。

## 開催会場

ストラスブール (仏)  
Ciarus7 Rue Finkmatt,  
F-67000 Strasbourg

[www.japanese.hostelworld.com/  
hosteldetails.php/Ciarus/Strasbourg/  
7043](http://www.japanese.hostelworld.com/hosteldetails.php/Ciarus/Strasbourg/7043)



## 期間

2021年7月29日 (木)  
— 8月1日 (日)

## 安全のために

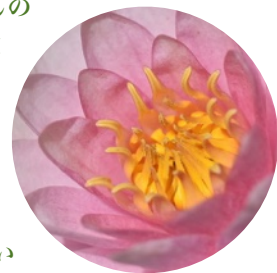
キリスト者の集いは、文字通り集まることに意義があり、顔と顔を合わせ、喜びも悲しみも分かち合い、ともに心を合わせ主を賛美し、栄光を主に帰することとしています。実行委員会では多くの時間を費やして、参加者が安心して集いに来られるよう方策を講じていく所存です。

現在、欧州各地で規制緩和がすすんでいるとはいえ、武漢ウイルスは消滅した訳ではありません。人類は、ここしばらく厄介なウイルスと闘いつつも共存せざるを得ない困難な状況に身を置くことになりました。

開催地のフランスにおいては、6月30日をもって夜間外出禁止や、すべてのコロナ規制は解除されました。それに伴い会場の人数制限

もなくなり、大ホール187㎡には200人、ユースの使用する会議室(3部屋の仕切りを取り払い1つの大きな部屋にする)89㎡には60人が収容可能となりました。ただ、感染予防に会場でのマスク着用、手の消毒、なるべく人との距離をおくなどの衛生プロトコルを考えています。

宿泊所にあたるCiarusでは衛生プロトコルを厳守しており、距離をとるための人数制限、レストランの朝、昼、夕の消毒、一日数回の換気をしており、これまで一人の感染者も出していません。先日も欧州各国から青年120名が集まり5日間のセミナーを催行しましたが、なんの問題も生じませんでした。ホテルとしてはもし感染者ができればその打撃は大きい



ので最大限の注意をしています。また、チェックインの際、義務ではありませんが、自国でのPCRテストの検査の提示を願っています。出発前にテストが出来なかった場合、Ciarusの入館前に、実行委委員会で用意したAntigenique（抗原検査）テストができるよう準備を進めています。



ドイツやスイス側から陸路で国境を越える場合、ワクチン証明や72時間以内のPCR検査書、48時間以内の抗原検査の提示を抜き打ち的に求められることもあるとの報告があります。各国から国境を越える際のチェックの有無等は各自お調べくださるようお願いいたします。

また、開催日に熱や咳等の風邪の症状があったり、体調が芳しくない場合、どうか来場を控えてくださるようお願いいたします。

規制は感染状況に応じて、国によって予告なしに変更される場合もありますが、実行委員会ではそれらを把握するのは極めて困難ですので、各自お調べくださるようお願いいたします。

実行委員会では、もろもろの情報を逐次ホームページのストラスブル特設サイトの[感染対策サイト](#)にアップしてまいりますのでご参考にしてください。

特設サイトには、Q&Aコーナーをもうけ、よくあるご質問を掲載いたしますので、ご質問のある場合、まずこのコーナーで答えがないことを確認して、メールにてお問い合わせください。



## 賛美と証しの夕べ 恵みの分かち合い

7月31日(土)の夜は「賛美の夕べ」が予定されていましたが、当初予定されていた奉仕者の現地参加が叶わなかったことにより、ユースプログラムスタッフ主催の「賛美と証しの夕べ(恵みの分かち合い)」を行うことになりました。

聖歌隊によるアンサンブル賛美、ヨーロッパで音楽を学んでおられる方々の特別賛美の他、ユースプログラムで例年行なわれている恵みの分かち合いを参加者全員で行います。

主の臨在と祝福に満ちた時となるように、お祈りください。

## 代表者会議

代表者会議は7月30日(金)の13時半から15時まで現地で開催されます。議題を提出されたい方は実行委員会に7月15日までにお送りください。

## 中高科ユースプログラム



中高科・ユースプログラムは、中学生～25歳くらいを対象として、本大会と並行して同一施設内の別の部屋で行われます(ただし、7/30午前の集会、7/31夜の賛美の夕べ、8/1の主日礼拝は本大会と合同で行われる予定です)。

講師はフランクフルト日本語福音キリスト教会の矢吹博先生とデュッセルドルフ日本語キリスト教会のディーター・ヘーゲレ先生です。おおよそ半年前から20代-30代を中心としたスタッフ13人と講師のお方で祈りつつ準備を進めています。集いが現地で行われる場合は、様々な状況を想定し、できる限りの感染防止対策を取りつつ行います。

どのような形での開催となったとしても、変わらない神様の祝福が参加される中高生・ユースの一人一人に豊かに注がれることを信じています。どうぞ覚えてお祈りください。

## CSプログラム

CS子どもプログラムのテーマは「イエスさまといっしょに歩こう」

大人のテーマである「イエスさまにある希望」をお子様向けに分かりやすく、5セッションに分けて5つの聖書箇所から学び、体験してゆきます。

第1、また会える希望(担当は矢吹育代先生)

第2、神がくださった永遠のいのち(清水由紀子先生)

第3、神の家族(山内幸子姉)

第4、神さまのみ国(川上真咲先生)

第5、こころの中のたからもの(井野葉由美先生)

31日の午後にはお楽しみ会や、お祈り突撃隊なども考えています。では、現地でお会いできることを楽しみにしています。



左が育代先生、ご主人の矢吹牧師と

## 委員会からのお知らせ

集いの期間中、[アナウンス](#)をしたい方(お一人・出入りも入れて3分以内)は、7月22日までに集いメールアドレスへ連絡してください。締め切りは厳守願います。

アナウンス(ミニストーリー紹介など)は初日の「教会紹介」の後の時間に限りです。それ以外の集会の後のアナウンスは実行委員会からのお知らせのみとなります。

各集会で与えられたメッセージを各自が心に思い巡らしながら散会できますよう、ご理解をよろしく願っています。

[会場の展示・販売コーナー](#)をご利用希望の方も7月22日までに集いメールアドレスへ連絡してください。展示物の内容をあらかじめHPにアップロードもできますので、ご利用ください。展示物や会計、最後の後片付けに関する責任は各自が持つようにして頂きます。

初日に参加者の所属教会をPPTを用いて紹介いたします。また、HPにも[参加教会/集会の紹介](#)があります。

## 会場に着いてから

### チェックイン



まず、集いの受付でしおりと名札を受取り、Ciarusのフロントにて名前を言って、ルームキーを受け取ってください。（その際Ciarus側から、72時間以内に受けたPCR検査もしくは抗体検査の陰性証明を提出されたいとの要望がされています。）もし、お持ちでない方は実行委員会の方で用意した簡易テストを受けていただき、15分後に出た結果を提示いただけます。

集いの受付が設けられたロビーで、旧知の信仰の友の輝く笑顔を見つけ、再会の喜びに心満たされる。これまでの集いでは当たり前のようにあったごく自然の光景で集いの醍醐味でした。そして、再会を喜び、ハグしたり、大声で笑って話すということがロビーでの風物詩でありましたが、今年は控えめにお願いいたします。日本風のお辞儀や、握手代わりに肘コツンで、できるだけ速やかにお部屋の方に移動してくださいませようお願いいたします。

### 緊急連絡先

(33) 06 8284 2424 (富永)

(33) 03 8815 2788 (Ciarus)

## 持ち物チェック

### 聖書、筆記用具、着替え、常用薬、マスク(規定なし)、帽子、うちわ、スリッパなど。



CSにお子さんのいる家庭：動きやすい服装で。水筒、日焼け止め、虫刺され防止薬など。

その他 \_\_\_\_\_、 \_\_\_\_\_

## 駐車場/交通案内



### 実行委員

安藤里佳子(実行委員長・ミュンヘン)  
富永重厚(パリ)、  
清水勝俊、上野浩子、(南ロンドン)  
松林幸二郎、今村泰典、トムセン・チャーリー(スイス)

## ストラスブール徒歩市内案内

### 石引正志氏



7月31日(土) 13:30-15:00

### 宗教改革の跡を辿って

ストラスブールで活躍した宗教改革者やプロテスタントに関する場所を訪ねて、ストラスブール市内を徒歩で現地にお住まいの石引正志先生がご案内してまいります。



-16世紀の宗教改革の初期の中心地は、当然ルターの居たザクセン選帝侯国のヴィッテンベルクとツヴィングリの居たスイスのチューリヒでしたが、西南ドイツではストラスブールが独自性を持った中心地となり、周辺の都市や国に影響を及ぼしました。ストラスブールは異端にも寛容な都市として知られ、再洗礼派やスピリチュアリストなど宗教上の意見を異にする人びとが流入しました。

ストラスブール宗教改革のリーダーはのちにサントマ教会の牧師となったマルティン・ブツァーですが、最初に福音的、宗教改革的説教活動を開始したのはカテドラル付きの司祭であったマテウス・ツェルでした。彼は市民の娘カテリーナ・シュッツと結婚し、夫婦共々貧困者や亡命者の救済に努め、非正統派の亡命宗教者への寛容な取り扱いを当局に訴え続けました。1530年代の終わりにはジュネーブを追われたフランス人宗教改革者ジャン・カルヴァンが亡命フランス人教会の牧師として呼ばれて3年間滞在しました。また彼はこの頃できた高等教育機関(のちのストラスブール大学)で神学を教えました。



今回は特にブツァー、カルヴァン、ツェル夫妻に関連した場所、教会を訪ねたいと思います

### 石引正志(略歴)

元青山学院女子短期大学教授(西洋史担当)。1970年~1973年ストラスブール大学プロテスタント神学部で宗教改革史を学ぶ。日本では日本キリスト教会世田谷千歳教会の会員。当地では地元のルター派教会に出席。数年前から「聖書のお話を聞く会」に出席。著訳書『フランス史2』(共著)〔山川出版社〕、『カタリナ・シュッツ・ツェル』(共訳)〔一麦出版社〕



## 講演概要



### 講演 1

#### エレミヤが生きた時代と私たち エレミヤ29:11 清水勝俊



エレミヤ書29章1～14節は、捕囚にあるイスラエルの民に回復を語るすばらしい希望のみことばです。このメッセージに込められている祝福と恵みを、

ともに置かれている状況の厳しさの中で、私たちは、特に信仰者として大会のテーマである「キリストの希望」について、みことばからその深さを受け取って行きたいと願います。

### 早天 1

#### くびきを負う 哀歌3:19-33 安藤廣之



バビロン軍によってエルサレムは滅亡する。その悲惨の中で著者は何に注目し、主との関係を整えて行ったのであろうか。哀歌はここで嘆きから賛美へとと言う大きな曲がり角を迎える。現在新型コロナの試みの中にある私達にとっても見習いたい事である。

### 講演 2

#### 失望に終わらない希望 ローマ5:1-5 矢吹博



この1年半、教会はローマ5章1-5節で語られていることを実際にたどりましました。一緒に集まってはならない、声を出して神を賛えてはならないというのは、集まってこそその教会にとって、致命的なことでした。けれども、神が与えられたネットワークというツールを用いて、教会は集まり続け、神

をたたえ続けました。苦難によって忍耐を学び、成長させていただいたのではないのでしょうか。そして、希望は消えることなく、ますます確かなものになりました。不自由な中を通らされてもなお、神は御霊によって私たちの心に愛を注いでおられます。

### 講演 3

#### 主が成し遂げてくださる 詩篇37:5 浅野康



グローバル化が進む中、世界中で経済格差が広がり、人種差別問題や地球温暖化、各地の紛争が社会の将来に暗い影を落としています。また、多くの人が長引

くコロナ禍で個人的にも将来に大きな不安を抱えています。私たちクリスチャンも信仰が試され、主への信頼と問題への不安との狭間で揺れ動いているかもしれません。

このような中、「あなたの道を主に委ねよ。主に信頼せよ。主が成し遂げて下さる。」と呼びかける神の御声は、長く暗いトンネルに差し込む一筋の光のようです。「人生を主に委ね、主に信頼する」とはどういうことか、「主が成し遂げられる」とはどういうことかを共に学び、先行き不透明な時代を希望を以て生きて行きたいと思えます。

### 早天 2

#### 神が与える試練と逃れの道 第1コリント10:11-13 川上寧



1. 「イスラエルの民の救いと不信仰の歴史がキリスト者に示されている意味」(コリントの信徒への手紙-10章1~11)
2. 「神が与える試練と逃れの道」(コリントの信徒への手紙-10章13節)
3. 「キリスト者が立つべきところ」(コリントの信徒への手紙-10章12)

### 早天 3

#### あなたはどこにいるのか 創世記3:1-10 佐々木良子



1. 神様からの問いかけ  
神様が私たちに望んでおられることは、神様の前に立ち、神様の赦しの光の中で神様と一緒に歩むことです。そのために

「あなたはどこにいるのか？私から離れてはいないか？」と、私たちにいつも問いかけておられます。これは私たちが聞き続けていかなければならない、一生涯の根本的な問いです。

### 講演 4

#### 新天新地 黙示録21:22 清水正夫



- 序；黙示録という書、黙示録21,22章の位置づけ
1. 新天新地～神の救いの計画の完成、歴史の最終目的地
  2. 新天新地への道程～

過ぎ去った以前のもの

3. 新天新地の恵み～聖なる都、新しいエルサレム

4. 信仰者の役割と希望、神の招き

### 講演 5

#### キリストが与える平安 ヨハネ14:27 マタイ8:23-27 マイヤー・マルチン牧師



私はあなた方に、私の平安を与えます。これはこの世の平安と違うものです。(ヨハネ14:27)  
キリストが弟子たちに残して下さった沢山のメッセージの中には、これは最も励まされる言葉の一つ

です。誰でも心の平安を求めています。しかし、本当の平安を持つてる者は少ないです。マタイ8章の、イエス・キリストが嵐を静めた話を見ながら、キリストの平安は何であるか、キリストの平安をどの様に得られるか、キリストの平安はどれほど人生のあらゆる不安を超える力であるかを、学びましょう。